

2024年度

第4回交流会 開催レポート

2025年2月8・22日に、東京都千代田区にて、採択先・アルムナイの皆さまとの交流会を開催しました。三菱みらい育成財団では、日本の教育をより良くするために、全国の先生や教育関係者らが自由につながり、創発・越境、新しいトライが生まれていってほしいという思いから、オンラインも含めて年に4回交流会を実施しています。季節外れの大雪が降るなど、交通機関に大きな影響が出ましたが、2日間あわせて94人の方にご参加いただきました。

一般財団法人
三菱みらい育成財団

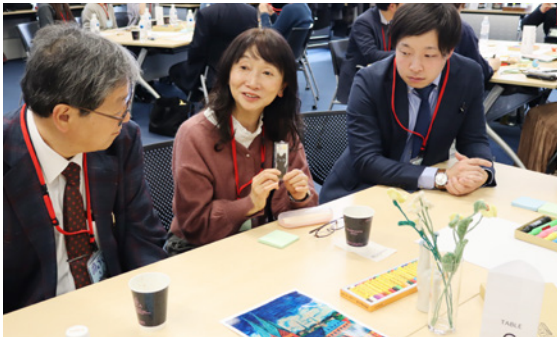


＜ 「ほしい未来」を描くために、「わたし」から始めることを意識する ＞

交流会の目的は、参加者同士の”対話“を通じて、日ごろ感じている課題や悩みの壁打ちの場にしていただき、「ほしい未来」を描くこと。4～5人のグループに分かれていただき、新しいトライ、アイデアを生み出すために、いったんこの場では責任や役割を手放していただき、肩書なしで自己紹介をしていただきました。あわせてお持ちいただいたお気に入りのアイテムもご紹介いただきましたが、ご自身で育てたニンニクや木彫りの熊など、意外なアイテムと「お気に入り」の理由に多くのグループから笑い声ができ、和やかな雰囲気になりました。

自己紹介の後には、ファシリテーターから「ほしい未来」を描くために、「社会が何を求めているのか」「今の教育や学校に何が足りないのか」など社会や置かれた環境からスタートするのではなく、「今、わたしがどんなことに気づいているのか」「わたしの中に”ある”ものは何か」、つまり“わたし”から始めることを意識していただきたい旨をお伝えしました。

まずは全員起立して、五感ワークを実施。自分の視界はどのくらいまで見えているのか、縦横に手を広げて視界を確認してみたり、今どんな音が聞こえるのか、周りのものを触って触感を確かめる、香ってみる、お昼ご飯の味を思い出してみる、など自身の五感を働かせ、近くにいる人とその感想を伝え合いました。次に自分の今の状況を確認するためのコンディション・ワークを行いました。今緊張しているのか、最近の体調は、今どんな感覚を持っているのか、もし自分が船だったらどんな海の上にいるのかを想像してもらい、会場内を自由に歩き回っていただき、またその感想を近くの人と共有し合いました。



＜ 文字にして書き出すことで、「マイテーマ」を明確にしていく ＞

自身の感性と向き合ってリラックスした後、いよいよ「対話」に取り組みます。まずは「今の仕事に就いた原体験」「教育を“受ける”立場の時、印象的だったこと」「変えたいと思っているところ」「自分の好奇心はどこから湧いてくるのか」「どんな時に迷うか」など、学びや“わたし”についての問いに対する答えを書き出すジャーナリングを行い、その内容をグループ内でシェアしました。さらにこのジャーナリングを踏まえて、「自分自身はどんなことに取り組みたいのか」「そのことを深めるために、今日この場でどんなことを参加者たちに聞いてみたいのか」を書きながら、「マイテーマ」を整理していきます。

次に3人一組になって、1人1分で「マイテーマ」を共有し、残りの2人は思ったこと、感じたことを付箋にどんどん書いて、最後にテーマを共有してくれた人に渡していきます。日ごろもやもやしていたことを文字にすることで課題や悩みが整理され、さらに第三者からの気づきやアドバイスをもらうことで、自分のテーマがより明確になってきた様子が伝わってきました。



〈「もっと自由にアイデアをドンドン出していこう!」の仕掛け〉

休憩をはさんで、今度は「学びづくり」「組織づくりー組織内にてー」「組織づくりー組織外とー」「その他」という大きく四つのテーマで集まり、同じようなテーマを抱える参加者同士でブレストを実施しました。ブレストのポイントは、アイデアをたくさん出すこと、他人のアイデアに乗かって膨らますこと、そして何よりアイデアのいい悪いをジャッジしないという3点。今回も3人一組になってブレストしていただきましたが、ここで一つ仕掛けをしてみました。その名も「ナリキリブレスト」。「大学の先生」「校長先生」「新卒1年目」「前のめりな同僚」「教育のNPOや会社の人」「少し不安感がある人」と書かれたカードを裏面にして1枚引いていただき、その人物になりきって、話したり、聞いたりするというもの。財団が「もっと自由に思考しやすくするために他人の眼鏡をかけてみたらどうなるか」という狙いの下、企画した「ナリキリ」。「その立場の方ならこういう考え方をするのか」と新しい気付きや面白みが出つつも、ついつい「素」が出てしまったりと参加者の皆さんからは「難しい〜」という苦笑いのような声も出て盛り上がり、「今度生徒たちとこのナリキリをやってみよう」という感想も聞かれました。



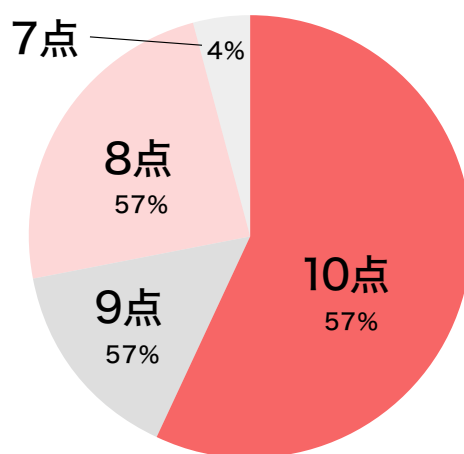
〈大勢の仲間で最後のブレストを実施〉



3人一組で続けてきたブレストの最後は、「もっと自分のテーマについて話したい!」という方に立候補していただき、4〜5つのグループに分かれて、より大勢の仲間でのブレストを実施。「若者が幸せになる教育の可能性とは」「探究の会社を作る」「地域創生の在り方」「若い世代に響く言葉とは何か」「価値観を広めていくうえで出版という方法はアリか」「どうしたら生徒や教員にゆとりがつけられるのか」など、多様なテーマについてさらに話していきました。これまでの対話で出てきた意見やアイデアも共有しながら、新しい仲間とさらにテーマを深掘りしていきました。約2時間にわたって行われたブレストはこれにて終了。最初のグループに戻り、ブレストで得たヒントや意見、また今の自分の気持ちや考えを整理した後、グループで共有。最後に三菱みらい育成財団 常務理事の妹背正雄より閉会のご挨拶をさせていただき、交流会は終了となりました。まだ話したりない皆さまには、その後の懇親会にてさらに交流を深めていただきました。

【アンケート結果】

Q. 本日のワークショップの満足度を教えてください。



10点満点で評価いただき、半数以上の方に10点をつけていただきました。

Q. 新しい気付きや感想、今後の取り組みたいことなど

カテゴリ-1

- ▶ 協力することのメリットを考える
 - ・なぜ他者が必要なのかを考える
 - ・思考を「周りを成長させるため」に変換する
 - ・何気ないコミュニケーションを大切にする
 - ・その人の得手不得手を理解する

上記のような意見・アイデアを頂きました。大変参考になりました。

▶ 実際に協力してくれる団体や考え方を教示いただきました。ありがとうございました!! つながりって大事だなと改めて…

▶ まさかの本を出すというアイデアに驚きつつも、価値観の発信って様々な形で実現できることに気づけたのが大きな収穫でした。

▶ 生徒の「好き」を引き出す、について考えた。「好き」という言葉を使わずに「好き」を語らせる。探究につなげ過ぎない。なりきりワークなど、参考になる活動が多く良かった。

▶ ハードルを高く設定しすぎていたことに気づけました。ベストばかりにとらわれずに、ベターを少しずつ進めていくことを、探究活動でも、普段の授業でも、人間関係でも意識していこうと思いました。

▶ 思いをもって課題や未来の姿(こうなって欲しい)をイメージしている方々と一緒にプレストできて、さらなるやる気や元気を頂きました。

▶ 異なる業態の方々との交流、意見交換が刺激的でした。明日から指導できるアイデアを頂くことができました。

▶「自由」は時には負担にもなりうる。「自由ではない」ものを選ぶ「自由」もある（他者や企業からの“ミッション”に自分はどの程度貢献できるか）。またメタ認知には様々な仕掛け方があると知った。今後の探究のデザインに組み込んでいきたい視点。

▶4時間、しっかり潜ることができました。潜ったうえで、志ある方と交流できたことで、新しいアイデアやエネルギーが湧いております。

▶この交流会に参加する前は、教員側の視点での学習づくりの話をしていましたが、グループワークを重ねるにつれて、生徒目線の思考が変わっていき、多くの気づきを得ることができました。

▶国際平和について、探究する生徒が多い本校として、“使命感”にかられることが多く、“ワクワク”をどこに見出すか、そのバランスが課題であった。しかし参加者の方々との対話の中で、“尊敬できる人”に会うこと（外部で世界平和のために行動する方々）、“思い”を伝えること（自分の価値観を伝える）の二つのポイントを改めて認識でき、アウトカムが達成感を得るうえで重要なことを再認識した。方向性もだいぶ固まった。素晴らしい時間でした。

▶前回もそうでしたが、なんとなく人が同じようなテーマでつながり、とても心地よく、一緒に考えられる「場」が最高でした。

カテゴリ-2

▶まず自分の意見を発する中で、どなたも否定しないことが驚きでした。また肩書がないことで、フラットでオープンな関係性を築くことができ、話しやすかったです。これもひとえにワークショップの設計のおかげだと思います！初めの五感ワークで、普段感じるものが少なくなっていると危機感を持ったので、五感大事にします！

▶探究が日常化（学校で当たり前提供）されたからこそ、探究が得意・苦手、好き・好きではない先生／生徒が出てきて当たり前。無理に進めるのではなく、探究をした人と進めることを選んでもよいのでは？が最大の学びでした。

カテゴリ-2・カテゴリ-5

▶今までの「学校のあたりまえ」を壊し、新しい学びに向けて取り組まれている先生方の想いに、とても勇気を頂きました。この熱量を社会の変化につなげていきたいという想いを新たにしました。

▶財団の活動も6年目(?)に入るところかと思いますが、参加者の層も厚くなり、持ち寄り取り組み事例や課題のレベルも多様かつ高度になっていると感じました。

カテゴリ-3

▶学修成果の可視化と言われているが、数値化することが必ずしも本人が望んでいるわけではないという意見があり、文科省からの義務と学生への対応を考える必要があるなと思いました。

▶多くの機会や体験を持つことが、自分の気づき、自走に大切であることを、このワークショップを通じて改めて認識した。同じ悩みや課題を持つ皆さんとの意見交換は極めて大切なことも併せて再認識した。

カテゴリ4

▶ 高校の先生方とたくさんお話ができました。一人の生徒がいずれ学生になるという時間軸を共有する仲間としての意識を強くしました。また先生方は生徒の姿を話しつつも、ご自身の悩みを投影する鏡像として見ておられる(私も)と感じました。

カテゴリ5

▶ 内的感覚への注目、その言語化の可能性に気づけたので、仕掛けを作っていきたいと思いました！仲間がたくさんできたことを嬉しく思います。

